

<p>本年度方針</p>	<p>① 教育課程・教務内規の整備 ② 成績処理システムの導入と整備 ③ 授業時数の確保 ④ 指導要録等の公募の整理と保管 ⑤ 学習指導 1 「学びある教室」の実現、押しつけでなく内発的な学習意欲の喚起 2 教科指導力の向上 3 6年間を見通した効果的な学習指導の定着</p>				
<p>今年度課題への具体的な取り組み</p>	<p>評価</p>	<p>達成状況・評価結果(中間評価) [9月末]</p>	<p>評価</p>	<p>年度内の達成状況や成果(最終評価) [2月末]</p>	<p>最終評価を踏まえた改善点・向上策</p>
<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領開始に伴って編成した教育課程の点検 平成26年度入学生の教育課程の検討と編成 	<p>B</p>	<p>入学生の教育課程の編成完成した。現行の教育課程点検・検討が急務である。</p>	<p>B</p>	<p>近年、教育課程の一部を変更してきたが、平成26年度入学生の教育課程の編成により、一区切りがついた。</p>	<p>新課程に伴い編成してきた、教育課程の点検を行う。</p>
<p>成績処理システムの導入と運用のための研修会の実施</p>	<p>C</p>	<p>業者見積もりが予算を上回っている現状。導入・運用のためのインフラの整備が遅れている。システム導入の再検討。</p>	<p>C</p>	<p>インフラ（一人一台のパソコン設置）の整備を先行させるため、システムの導入は見送り。</p>	<p>システム導入の可否の検討。導入する場合どのようなシステムが本校に適しているかを検討する。</p>
<p>教務内規の見直しと点検・整備</p>	<p>C</p>	<p>現状は、点検にも着手できていない。</p>	<p>B</p>	<p>点検した結果、一部訂正箇所あり。</p>	<p>内規の見直しを行い、現状との整合性を図る。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 授業確保のため、振り替えを行い自習を極力少なくする ベル授業の推進 	<p>B</p>	<p>可能な限り時間割の変更を行っている。変更の困難な講座編成や条件があり、すべてに対応できない。</p>	<p>B</p>	<p>可能な限り時間割の変更を行っているが、変更の困難な講座編成や条件があり、すべてに対応できていない。</p>	<p>可能な限り、授業変更を行い対応する。</p>
<p>活動方針⑤を達成するため、積極的な授業見学を行い、学年主任会議と連携を密にする</p>	<p>B</p>	<p>授業研究の日などには、授業見学が積極的に行われていた。日常的な実践が課題である。</p>	<p>B</p>	<p>授業見学の頻度が減少。理科では、研修日を設定して積極的に行われた。</p>	<p>日常的に、授業見学できる体制づくりに取り組む。各教科の研究日設定を提案する。</p>
<p>教科会議との連携を深め、カリキュラムの充実と教科指導法の向上をはかる</p>	<p>B</p>	<p>スキルアップにつながる教科会議をしている教科が増えたと思われる。</p>	<p>B</p>	<p>教科主任会議を開けなかったが、教科会議は積極的に行われている教科もあった。</p>	<p>教科主任会議の設定（定例化）する。スキルアップにつながる教科会議を充実させる。</p>

受験生増加、450名目標 愛校心をもって、積極的・効果的な（分かりやすい）広報活動を行う 建学の精神、学校目標、努力目標、教育実践と密接に連携していく					
具体的な計画の目標・評価方法	中間評価	達成状況・評価結果(中間評価) [9月末]	最終評価	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策
学校案内・ポスター・願書作成	B	効果的に発信できるツールにする。校内外の声をより集め、鈴鹿の色をより明確に発信する。	A	早期に作成の準備開始。来年度以降モデル年度内決定より早期完成を目指す。校内外の声をより集め、鈴鹿の色をより明確に発信する。私学展で使用「特大ポスター」効果大である。	次年度準備開始。ポインタを絞ってのPR →医進・選抜コース用リーフレット作成 →関心度の高くデザイン（インパクト）検討する。
学校・入試説明会（本校）	B		B	他校に比べて多方面から好評。伝えたい情報を流す目標は達成した。参加者も昨年比3割増した。課題：新規参加者の掘り起こしが困難だった。求校者呼び込みの仕掛け→塾の協力・新規参加者の掘り起こしのイベントを提案する。	“分かりやすさ”を大きな軸にし、保護者への情報伝達の場にする。また、児童により身近な存在となる説明会にする。
塾訪問	B	効率的で丁寧な訪問をする。県内大手塾の全校舎訪問をする。広報担当以外の教員も訪問する。より良い情報発信： →新コースのPR、模擬試験の傾向を、積極的に情報収集・提供する。 →医系進学者育成プログラムのPR=反響大である。 →様々な校内の取り組み等も積極的に発信する。	B	受験生情報交換をより密に行う。中小規模・個別指導の塾生増加傾向である。（鈴鹿中ファンは多い）	定期的訪問：担当する塾を決めて訪問（大手ではなく中小塾を主に）→塾とのつながりを強固にする。市場の声：真摯に受け止める→改善できることから始める。様々なイベントを積極的に取り入れ方向性を教員で共有する。
新聞広告等	B		B	有効的な活用：費用・掲載内容・時期・説明会誘致に特化し3年制と協同開催も視野にする →検討・判断・実践 費用対効果：説明会アンケートで確認できるように質問項目を検討する。	費用対効果の検証→難しい→説明会アンケートで検証する。二次的な募集へ→内容・費用を吟味して広告掲載する。
広報イベント 私学フェスティバル	A	日常的な姿を見せるイベントを目指す→夏休みの講座体験に特化したイベント(手作り感のある)イベント)を考案する。 桑名・松阪・鈴鹿・愛知(名古屋)で実施した他校合同のイベントは継続実施は必至→各校広報担当者会議で、要検討する→方向性と具体的な実施方法を意見交換する。	A	本校の強み→広報活動・イベントを生徒の成長の場、発表の場として理解浸透している。 ショッピングモール等で発表会や、夏休み講座体験、小学校英語導入に関わる小学校との連携など 新たな取り組みをスタートしたい。 県内私学広報担当→会議・打ち合わせをさらに充実する。	体制づくりの構築を目指す→事業立案・企画・実践 （夏休みの講座体験に特化したイベントや小学校英語導入で本校英語科の協力など） 教員業務のバランスを考慮し、より効果的な計画が必要である。 受験生掘り起こしが課題→県内私学間の協力必至である。 イベント会場→集客力が見込める場所選定する。
説明会（塾対象）	B	多くの教職員が参加→鈴鹿中を「見せる」。本校の改革(新コース)→かなり浸透度があった。効果的な広報活動につなげる。継続的な情宣をかける。	B	アンケート結果→良好だった。参加状況→数年参加者数は横ばい・参加塾数は減少傾向である。参加塾数増加を目指す。	PR→工夫が必要である。塾への情報整理→具体的なデータが必要。鈴鹿を見せる貴重な機会→依頼継続参加塾数増加を目指し→案内状+訪問→参加勧誘を実施する。
説明会（各塾主催）	A	6年制編入募集→広報、総務、管理職、3・4年の先生中心に担当本校の職員が「見せられる」→好評だった。→継続する。	A	教職員の協力ですべてを無事に終了した。→日程調整をクリアできた。	日常の教育活動情報→的確に発信→広報部が中心となり土台づくりが必要である。ベースマニュアル共有(丁寧な準備)→ブレゼン・資料。
現場との連携	B	高い意識で教職員の協力が得られた。今後も事前準備を的確に継続する。「皆で学校を創っている」という意識向上→発信・校内連携力を高める。	B	高い意識で教職員の協力が得られた。今後も事前準備を的確に継続する。新事業実現に向けて→広報イベント・講座体験・生徒行事等検討する。	今年度の広報活動の軸は、見せること、分かりやすさを大切にする。広報活動への協力は、大きな力になっている。日常的な広報活動に携われる体制作りを目指す。
HPなどのIT整備	B	HP：システムの更新を目指す。業者と本校でシステムの総点検をする→改善・連絡・連携強化する。	B	IT整備：運用に目途が立った。教員へのPCの配備：実現と円滑な運用を目指す。HPの更新：より積極的に実施する。	HPは重要な生徒募集ツールであるので、内容の充実はより積極的な更新を目指す。担当者一極集中をなるべく避ける仕組みを目指す。

<p>本年度方針</p>	<p>生徒一人ひとりのニーズを満たすための幅広くかつきめ細かい進路指導 ◆生徒一人ひとりが個々の適性に応じた進路選択ができるように努める ◆生徒一人ひとりの進路志望実現を目指し、それに必要な学力増進と進路意識の向上に努める</p>				
<p>具体的な計画の目標・評価方法</p>	<p>評価</p>	<p>達成状況・評価結果(中間評価) [9月末]</p>	<p>評価</p>	<p>年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]</p>	<p>最終評価を踏まえた改善点・向上策</p>
<p>大学入試に向けたモチベーションアップの方策の検討(低学年次からの難関大への意識づけ)</p>	<p>A</p>	<p>高い意識を持った集団づくりとモチベーションアップに繋がる取り組み→大学訪問(高等部の望者対象)[名古屋大・京都大・東京大]を実践した。 「医系進学者育成プログラム」は5回終了した。 東大金曜講座の実施。 各学年で出前講義の実施。 ハイレベル模試の勧誘をした。</p>	<p>A</p>	<p>職業体験学習(中2)三重大の出前講義・東大の出前講義(中3)実施をした。 「医系進学者育成プログラム」は、全10回終了した。 プログラムに対する満足度も非常に高い。 東大金曜講座も引き続き後期も実施。 上記の事業は、次年度以降も継続の必要性を強く感じる。</p>	<p>生徒の意識や目的など見えない力を低学年次から意識付けすることに重点を置き、次年度の取り組みを検討する。基本的に今年度実施した取り組みについては、すべて次年度も継続実施し、(プラスαとして)新規取り組みの実施を検討する。</p>
<p>新課程入試に関する情報収集</p>	<p>A</p>	<p>新課程入試に対応できる情報収集を継続的に進める。 カリキュラム変更など教務部・各教科と検討を進める。</p>	<p>A</p>	<p>入試情報を正確で速やかに教員・生徒へ提供する。(高1、高2生へ2015年度入試科目一覧表を配布)</p>	<p>センター試験で理科の時間割等の実施詳細については6月頒発表の見込み。まだ全容が明らかにならず、不確定な部分が多く残っているので継続的に情報収集に努めていく。</p>
<p>各模擬試験実施後の振り返りシートの活用</p>	<p>B</p>	<p>各模試の振り返りをし現状把握と今後の展望は必要不可欠。また、各学年の現状を職員全員が情報共有することが重要。成績返却後1週間を目途に全体に報告できるように努めてほしい。</p>	<p>B</p>	<p>分析結果をもとに指導法の検証などをおこなった教科・学年が増えた。</p>	<p>模擬試験分析結果の活用→学年・教科主任・教科担当者は、課題を確認し事後指導に活かす。 学年の現状を把握し指導法の検証→センター試験得点アップへつなげる。</p>

人権教育部

本年度方針	三重県人権教育基本方針の趣旨を踏まえ、本校建学の精神「誠実で信頼される人に」と、学校教育目標の「①教師全員が生徒を伸ばす教科指導の充実と評価」「②集団としての規律とルール・時間を守る自己コントロール力の育成」「③いじめや差別のない仲間づくりと命の教育の充実」のもと、学習指導、生徒指導、進路指導をはじめとするあらゆる場で、生徒の人権意識を高め、人権尊重の立場に立てる生徒を育成する。				
具体的な計画の目標・評価方法	評価	達成状況・評価結果(中間評価) [9月末]	評価	年度内の成果や課題、達成状況(最終評価) [2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策
学級集団づくりに役立てられるような人権アンケートの活用。資料提供や講師紹介など学級、学年での人権学習に協力する	B	アンケート実施→集計・結果→各担任・部内へ →情報の共有をした。 2学期(11月)にいじめに関するアンケート予定している。	B	道徳の授業題材提供をした。 人権アンケート実施した。 人権授業研究発表テーマ：「障がい者問題」 人権学習会(3学期)：講師を招いてのを企画 (中等部：外国人問題、高等部：命の大切)	次年度もアンケートや人権学習の資料提供、助言者、講師紹介などを進め、学級経営や人権学習の質を高めるための協力をしていく。今年度行った社協での車いすレンタル、人権センターのビデオ資料の活用など外部との連携をさらに深めていきたい。
生徒会人権委員会の活性化をはかる	B	人権ポスター制作を全クラス実施し、人権教育の啓発活動をした。 委員会活動が活発になり、鈴青祭・文化の部で掲示発表をした。	B	人権の大切さを生徒に還元する活動をした。 前期：人権ポスター作成 後期：人権関連図書を全校生徒に紹介	委員会の活性化をめざし、活動内容の計画・実践を高める活動の継続させる。
「子ども人権フォーラムすずか」など、他団体、他機関の活動に学ぶ機会を活用する	B	「人権フォーラムすずか」(各中学校区別)に参加した。 神戸中学校区に参加予定(12月)→準備を進める。	A	神戸中学校区に参加(12月)：県内外出身小学校を持つ本校生徒の仲間づくりの発表は、好評であった。	神戸中学校区との連携し継続する。 生徒の人権教育の意識向上を図る。
年間4回の人権ゼミナールを企画し、毎回教職員30名の参加をめざす	B	教職員研修(6月)実施：テーマ「6年制中学校と特別支援教育」→事後研修も充実し有効な研修となった。	B	人権フィールドワーク(8月)：奈良県水平社博物館・大久保まちづくり館等研修を実施した。	6・3年制合同開催：日程調整が難しかった。 次年度へ→時期・内容のバランス考慮し実施していく。
教育相談を充実させ、教室に入れない生徒や不登校生徒への関わり、保護者や担任など関係者との連携に協力する	A	関係者連携強化：教育相談担当者がカウンセラーと学級担任、学年団に対するコーディネーター役を実践した。 カウンセラー業務に専念してもらえるよう協力していく。	A	関係者連携強化：教育相談担当者がカウンセラーと学級担任、学年団に対するコーディネーター役を実践継続していく。カウンセラー業務に専念してもらえるよう努力する。	重点目標：人権室登校の生徒との関わりだけでなく、教育相談担当のコーディネーターとしての役割を強めた。 カウンセラーの負担も減り業務に専念してもらえるようになった。 校外研修：成果は大いにあった→校内へ啓発・発信
「人権室通信」を定期的に年間3回発行する 「教育相談だより」を年間3回発行する	A	教育相談通信発行(5・7月)。 人権室通信発行(9月)。 次号は12月頃発行予定。	B	教育相談通信発行(5・7・12月)。 人権室通信発行(9月)。	人権室だより・教育相談だよりは、継続発行していく。

<p>本年度方針</p>	<p>① 前年度までの反省点を活かすべく各業務を改善するとともに、先に目をやった取り組みを行うこと。 ② 説明会をより充実した内容にするとともに、志願者450人以上を集められる具体的な方策を練ること。 ③ 防災教育に関して、間違ったメッセージを出さないように努めること。 ④ 地震の際の転倒防止を避けるため、ロッカーなどの固定をチェックすること。 ⑤ PTA活動について、本部役員と学級委員からなる広報部・厚生部・研修部を充実させること。 ⑥ 同窓会総会を充実させること。</p>				
<p>今年度課題への具体的な取り組み</p>	<p>評価</p>	<p>達成状況・評価結果(中間評価) [9月末]</p>	<p>評価</p>	<p>年度内の達成状況や成果(最終評価) [2月末]</p>	<p>最終評価を踏まえた改善点・向上策</p>
<p>円滑に学校運営が行われるよう校時や行事の調整を行い、生徒・保護者・教職員への伝達事項を確実に伝えること</p>	<p>B</p>	<p>行事予定の調整(校内での調整、三年制との調整、業者との調整など)を滞りなく行い、各方面への伝達を行うことができた。朝の打ち合わせの内容をFirstClassに毎日アップした。</p>	<p>B</p>	<p>行事予定は、順調に1年を終えた。行事等の案内文書は、適時保護者宛てに発行できた。朝の打ち合わせ事項をFirstClassで、全教職員に周知に努めたが不徹底であった。</p>	<p>計画性を持ち、他との調整や保護者への案内文書発行が遅れないよう努める(三年制と調整)。FirstClassの閲覧を重ねて促す。</p>
<p>備品の在庫を把握し、欠品が無いよう発注を行うとともに、節約にも努める</p>	<p>B</p>	<p>印刷スペースの整理・物品整理実施中である。職員室の共有スペース使用改善していく。不要物の処分を進める。</p>	<p>B</p>	<p>業務効率化を目指し、環境整備をした。(用紙保管場所のレイアウト・補給のシステム・印刷物の廃棄)共用スペースの適正使用を呼びかけた。</p>	<p>文書類の整理・配置変更等をさらに進め効率アップを図る。不要物の整理・処分を推進し、点検の定期化校内環境整備に努める。</p>
<p>中学入試志願者数450名以上を目標とし、広報部と連携して説明会をはじめ本校をアピールする活動に積極的に取り組むこと</p>	<p>B</p>	<p>広報部と連携して各種説明会へ参加し、「医進・選抜コース」の特化をアピールする。目標の志願者数を確保するべく入学試験までの3か月を有効活用する。</p>	<p>C</p>	<p>本校主催説明会・塾主催説明会などで本校のアピールを伝えたが、目標の志願者数を大きく下回る結果であった。医進・選抜コースについて関心度は高い。</p>	<p>医進・選抜コースの流れをより明確にする。大学合格実績につながる教科指導・進路指導に加え、生活指導にも一層の力を入れることが志願者数増につながると考えられる。</p>
<p>スクールバスの経路を、より生徒の通学範囲に合ったものとする</p>	<p>B</p>	<p>スクールバスの路線変更(白子方面)を実施した。新たな展開に向けて情報を収集し、乗車数アップをめざす。</p>	<p>B</p>	<p>バス新路線を開設(旭ヶ丘方面)することでより生徒の通学範囲に合う運行ができた。校外行事日に生徒のニーズに合った輸送をする。</p>	<p>さまざまな情報を収集し、運行経路を広げるなど、乗車数アップを目指す。大胆な経路変更実現の可能性を探る(平田町駅⇔加佐登駅等)。</p>
<p>講演会や訓練などを行うことにより生徒・教職員の防災意識を高めるとともに、防災時の対策に取り組むこと</p>	<p>A</p>	<p>鈴鹿市防災危機管理課から講話と避難訓練を実施し、チェックを受けた。(4・9月実施)PTAからの援助で防災用品を購入(3年間分)した。</p>	<p>A</p>	<p>防災マニュアルを配付し説明と外部講師の防災に関する研修会を実施した。被災地から講師を招き研修会(講演会)を実施した。</p>	<p>必要事項リストアップとその時期を確立した。防災マニュアル等も活用し、教職員・生徒の防災意識をさらに高める取り組みを実施した。校内の危険箇所をチェック確認した。</p>
<p>PTA活動・同窓会活動を活発に行い、充実させること</p>	<p>A</p>	<p>PTA総会・役員会(5回)終了した。広報すずか82号発行した。厚生部バザー・秋の講演会を実施した。同窓会幹事会の案内を発送した。研修部アンサンブルコンサート(12月)を計画中である。</p>	<p>A</p>	<p>役員会8回実施した。各部会が積極的な参加者があった。広報「すずか」(各学期末ごと)発行した。アンサンブルコンサート(12月)を実施した。</p>	<p>広報「すずか」の記事原稿について教員や生徒への依頼内容について、検討が必要である。PTA主催行事への参加者増の対策を検討する。次年度は同窓会とPTAが協同で行事等を計画し、連携を図りたい。同窓会活動の充実を図る。</p>

本 年 度 方 針	①一年間を通して、全生徒で取り組む環境美化活動の強化 ②緑化など、うるおいのある学校づくりをめざす ③整美委員や生徒会との連携を図り、生徒の主体的な取り組みを強化する ④自らの心身に関心を持ち、積極的に健康な生活を送ることができる生徒を育成する ⑤教職員の心身の健康の保持増進に努める				
今年度課題への具体的な取り組み	評 価	達成状況・評価結果(中間評価) [9月末]	評 価	年度内の達成状況や成果(最終評価) [2月末]	最終評価を踏まえた改善点・向上策
日常の救急処置を通しての保健指導および健康相談活動	A	適切に実施することができた。	A	適切に実施することができた。さらに効率的・効果的な方法を検討していく。	来年度の検診の準備を進めていく。
特別支援教育の推進・教育相談室との連携	C	現状では教育相談と分野が重なっていて、何が特別支援なのか分からなくなっている。組織的なバックアップ体制が必要。教育相談との連携はできている。	C	現状、教育相談と分野が重なったの動きがあり、組織的なバックアップ体制が必要。教育相談との連携は、強固になっている。	今後バックアップ体制の整備についての検討が必要である。
学級担任をはじめ学校全体での密な連携	B	連携はできている。更なる向上に努める。	B	連携に努めた。	丁寧な連携を心がける。
保護者・地域・各種専門機関との連携、救急体制の確立	C	具体的な取り組みはできていない。	C	具体的な取り組みはできていない。	各種機関を上手く活用できるようにする。救急体制の日常点検を行なう。
保健委員会を充実させ、活性化を図る	B	委員会の生徒は主体的に取り組むことができた。	A	委員長を中心に生徒が主体的に取り組むことができた。	引き続き生徒が主体となって取り組む。
保健学習（性教育、喫煙防止教育、薬物乱用防止教育など）への取り組み	C	12月に実施予定	B	2学期末に4年生を対象に行なった。	発達段階に合った内容・方法の実施を検討する。
全生徒で取り組む環境美化活動の呼びかけをする	B	美化コンクール以外に、清掃活動を定期的に行い、用具の確認や教室、トイレの点検などを生徒に行わせることで清掃への意識づけができた。	B	用具の整備や手入れも必要。校舎の設計上、高所窓など掃除不能場所もある。	毛かき・掃除機・モップなどの整備。高所用の道具を用意する。本館昇降口マットの更新をした。
生徒会・整備委員と共に美化運動を行なう	B	前期は整備委員が中心の活動をした。後期は生徒会と連携し活動した。	B	全生徒が取り組むまでに至っていない。	分担の再考、掃除習慣の確立。
⑨ゴミの分別の強化を通して、リサイクルの意識を高める	C	ゴミの分別に関しては、徹底できていない。検討課題として、色別のゴミ袋を使用するなど業者との連携も必要ではないか。	C	全校を通じて環境美化、ゴミ分別などへの意識が低い。校内美化の意識を高める啓発活動が必要。	「職員室から美しく」をモットーに学習環境を整えて結果を出したい。ゴミ箱の表示を明確にする。校内美化の意識を高める啓発活動が必要である。
⑩地域の清掃を行なう	C	実施計画でできなかった。			

平成25年度 学校関係者評価 [保護者対象]			集計			
			1	2	3	4
			強く そう思う	やや そう思う	ややそう 思わない	そう 思わない
7月実施						
1	教育目標	学校の教育目標が保護者や生徒に明確に示されて建学の精神である「誠実で信頼される人に」の人間形成がはぐくまれている	19%	71%	9%	2%
2	学習指導	学習指導において生徒一人ひとりの能力に応じた適切な指導をしている	24%	59%	15%	2%
3	進路指導	学年に応じた進路指導が充実している	23%	64%	12%	2%
4	生活指導	基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを身につけられるような指導が行われている	16%	60%	19%	4%
5	学校生活	学校行事やクラブ活動などで、生徒の活躍できる機会がある	27%	56%	14%	3%
6	教育環境	安心・安全で満足のいく施設・設備である	28%	60%	9%	2%
7	家庭との連携	学校からの情報はホームページや通信等で十分に保護者に伝わっている	21%	62%	13%	3%
8		PTA活動が活発である	14%	64%	20%	2%
9	満足度	子どもを入学させてよかった	36%	54%	9%	1%

平成25年度 学校関係者評価 [保護者対象]			集計			
			1	2	3	4
			強く そう思う	やや そう思う	ややそう 思わない	そう 思わない
12月実施						
1	教育目標	学校の教育目標が保護者や生徒に明確に示されて建学の精神である「誠実で信頼される人に」の人間形成がはぐくまれている	18%	68%	12%	2%
2	学習指導	学習指導において生徒一人ひとりの能力に応じた適切な指導をしている	23%	59%	14%	4%
3	進路指導	学年に応じた進路指導が充実している	22%	65%	12%	2%
4	生活指導	基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを身につけられるような指導が行われている	13%	66%	17%	4%
5	学校生活	学校行事やクラブ活動などで、生徒の活躍できる機会がある	29%	55%	13%	3%
6	教育環境	安心・安全で満足のいく施設・設備である	22%	63%	12%	4%
7	家庭との連携	学校からの情報はホームページや通信等で十分に保護者に伝わっている	19%	64%	13%	4%
8		PTA活動が活発である	13%	63%	22%	2%
9	満足度	子どもを入学させてよかった	41%	49%	8%	2%

※6年生は、除く